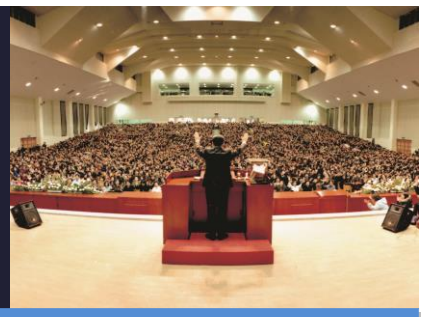
第 2017-30 号

恵みと真理のニュース



2017 年 7 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

主と共に福音を仕える楽しみの中で生きるようにしてくださった神様に感謝と賛美をささげます

私が幼い頃、暮らしていた家の近くに一つの教会で主日になると朝かすかな鐘の音が鳴り渡りました。その音で教会にとても行ってみたかったです。ちょうどその教会で通う友達を知るようになって友達とその家族をついて初めて教会に行って礼拝に参席しました。幼いがわけわからなく心が平安になりその時間が幸せでした。しかし、仏教信者だった親の反対で続けて教会に行くことはできませんでした。
私が中学校1年生の時に父親が亡くなり、父の空いた席によって寂しさと悲しさで学生生活を送りました。ソウルに来て職場生活を始めた後、寂しさがもっとひどくなりました。マンションの近くに大きい教会があって自分も知らずに教会に行くようになりました。多くの人々によって行きたくても行けなかった教会に入って空いている席に座りました。静かに目を閉じて私のなりに祈って聖徒が歌う賛美を歌いました。"イエス私のため十字架を背負って苦難を受けたイエスよ、イエスよ、私の罪のため血を流したイエス様、罪人を受け取ってｋださい。聖徒達の合奏の賛美を聞くとイエスキリストと聖書になにも知識と情報がなくても私の意志と関係なく私の涙が意味が分からなく涙を流しました。牧師の説教を聴いて礼拝が終わって相次いで聖徒が礼拝堂を抜けていく中に遠く聖歌隊席である執事さんが私に来て今日初めて来たようですが共に聖歌隊で奉仕して賛美しようと誘いました。その時は奉仕者が少なかったから可能だったことです。その執事の勧めを断ることが出来なかったです。それで、次の主日から聖歌隊で奉仕し礼拝を捧げました。すると賛美の恵みで充満になって主日ことに教会に行くのがとても幸せでした。
そうするうちに職場生活に懐疑をいだいてソウル生活辞めてアンサンに引っ越ししました。珍しい所で適応し生活するため教会から決めなければならなかったです。まもなく主日に地下鉄駅の前で立って祈っている時に大きい教会が目に入りました。行ってみたら恵みと真理教会でした。教会がとても美しくておおきかったです。礼拝を捧げる順序が感動的でした。"悲しむ人はイエス様を信じると永遠に変わらない喜びを得る。"という賛美が恵み溢れるように響いて感動を受けました。平安と喜びの涙を流し牧師の説教にも耳を傾けました。
その日、牧師は“何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。（マタイの福音書６：３３）イエス様の御言葉の教訓で私たちがイエスキリストを信じて福音伝道と主の事に力を尽くす理由について、相変わらずイエス気リストを信じ愛し献身する聖徒に与えられる福に関してお話してくださって初めの礼拝から大きい恵みと感動を受けて心が感化されました。
決心する時間に経って救い主であるイエス様に対する信仰を真実に告白して救いの福音を伝える生活をしようと決断しました。以後、礼拝を捧げることにイエスキリストを信じる者に与えられた第一の使命が福音を伝えるのを深く悟って使命感で満たされました。説教の恵みを愛し主日はもちろん平日礼拝と祈りまですべて礼拝に休まずに参席して御言葉を聴き日々信仰が成長して神様の恵みの中で生きるようになりました。
長女を産んで体の管理をしなくて長い間苦労しました。病院と漢方病院に通い早く治るように願いましたが、なかなか治らなかったです。すべての骨が痛くてしびれてたまらなかったです。真夏でも冬の服を着て恥ずかしかったです。礼拝をする時もエアコンの風邪を避けて礼拝をしてたくさん涙を流しました。神様に切に祈っても一年になっても治る気もなく心が弱くなった私を目て共に祈ってくださった首区域長がすべての体で神様に献身するように勧めました。私は痛い体で主日礼拝、水曜礼拝、金曜礼拝と聖歌隊で奉仕始めました。たとえ、体は痛くて賛美を歌うことができること神様に感謝します。そして、賛美する時間は痛みを忘れて楽しくて幸せでした。そうしながら、すぐ治る信仰と希望もできました。
その後、田園聖殿で断食聖会が開かれずっと御言葉を聴いて祈りました。" 主はこう言われる。創造者、主、すべてを形づくり、確かにされる方。その御名は主。「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。"（エレミヤ書33：2, 3）といった御言葉をしっかりと握って悔い改め祈りと感謝の祈りを捧げまた、聖霊の表れと能力を求めながらとりなし祈りをしました。そのように切に祈りをして当会長の牧師の祝福祈りをする時、全身にまるで 濃い霧が晴れているようで、爽やかな機運が感じられ、新しい力が湧いたです。その時間神様が私の体をきれいに治してくださいました。表現できないほど喜びと感謝の涙を流しラパの神様に栄光を捧げました。その後、重くて冬の福を着なくて軽くて華やかな夏の服で着替えました。教会で任された児童区域で奉仕をするようになりました。児童区域を見守って導かれながら私の子供と信仰がもっと育つようになりました。献身する神霊な楽しみとやりがいも増えました。
今まで親戚と周りの知り合いに伝道をしたら限界がありました。それで、礼拝時間ことに不信者を伝道して主の所に導く方を見てその人々の伝道にだいする熱情の能力を求め祈りました。そして、神様に委ねて毎日不信者を探して伝道し始めました。午前は家事をしてから1時間くらい祈って一人の魂が何よりも大事である御言葉を黙想して家の近くから聖霊に導かれるところまで伝道しました。
1週2週3週そして1か月超えて2か月の間、熱心に人々に出会って福音を伝えました。神様はすぐ実りが見えなくても落胆しなく続けて伝道するように私を強く訓練させました。3ヶ月になる時に伝道する方法を点検するようになってもっと魂を大事に思うようにしてくださいました。そして、忍耐を習って結果は全て主に任せて神様の権能を望むようにしてくださいました。
今まで伝道の実りはなかったですが、熱心に種をまいたら時になると喜びの見取りを得ると期待と希望を持って伝道した3が月の最後の主日の朝早く起きて教会に向かいました。今まで伝道した人々に連絡して主日2部礼拝に誰か決信させるため願い教会に行くときにある人が恵みと真理福音紙を持っているのを見て私に声をかけられました。過去の私のように引っ越しをして教会を探している人でした。その方を教会に連れてきて共に礼拝を捧げました。今まで、一人で伝道して世の人々から様々な迫害を受けたことが雪が溶けるように悲しみがなくなりました。この日神様は私の涙を拭いてくださり、私の心に恵みが溢れるようになりました。私のような人が人の魂の救いのため用いられるようにしてくださった事に感謝します。その方が始めて参席した礼拝で深い感動と恵みを受けたと言い決信して神様を信じ仕える生活を約束しました。
次の礼拝も伝道の実りを得る確信をもっと伝道をするため行きました。そして私の信仰の通りその3部4部5部礼拝で連続して伝道実りを得ました。続けて新しい信者を決心させるため5回も続けて礼拝を捧げ昼ご飯も食べなかったですが、私の人生で一番お腹いっぱいになる日で一番幸せな日になりました。その時から伝道がそんなに難しくなかったです。私は主の御言葉に従順して憐れむ心で熱心に福音を仕えるだけで、聖霊が福音を聴く人に心に感動を与えてくださり、悔い改めるようにしてくださって主日礼拝、水曜礼拝ことに伝道の実りを与えられ神様に栄光を捧げます。
たくさん雨が降る日も今日一人でも伝道しようと強く決心と覚悟を持って家を出たら日本同胞に出会って2時間以上話をして福音を伝えて次の主日に決信させた事、ある日はバースに乗って祈りをしながら降りようとしてバース停留所を過ぎてしまって終点まで行って戻ってくる道に出会った病弱な人を伝道しました。その方が癒しの恵みを受けて健康になった事、様々な例を挙げられないほど伝道して多くの恵みの体験をしてまた、今日も体験しています。
私を救ってくださり人生の真の勝利者、成功者、幸せな人になるようにしてくださった神様に感謝します。恵みと真理教会をリバイバルをしてくださる神様、私に聖霊に満たされて実りを得ても得なくても神様がくださる賞を願いながら福音伝道に力を尽くすようにしてくださる神様感謝します。多くの人々が主の所に戻るように私の期待と希望の中で真実に働く大きい事を行われる神様に感謝と賛美で栄光を捧げます。" 目覚めた人々は大空の光のように輝き／多くの者の救いとなった人々は／とこしえに星と輝く。 "（ダニエル書12：3）アーメン

[信仰コラム]　とても特別な人

" アグリッパがパウロに言った、「おまえは少し説いただけで、わたしをクリスチャンにしようとしている... "（使徒言行録 26:28、29）

聖書の基準に従って全ての人を分類するとしたら義人と罪人、キリスト内にいる人とキリストの外にいる人、神様の子とサタンの子、天国市民と地獄の子、生まれ変わった人と生まれ変われなかった人、とこしえの命を得た人と滅びる人等に両分することができます。そして普通の人と特別な人に区分することができます。特別だというのは普通と区別されて異なることを指し、大体に良い意味として使われます。イエス様を信じる人はとても特別な人です。その理由を調べてみます。
第一、イエス様を信じる人は所属が特別です。
' キリスト人 ' は " キリストを追従する人 " または " キリストに属した人 " という意味です。イエス様を信じる人は自分がキリストに属したという所属意識が確固不動で自分の所属を明らかにするのを躊躇ってはなりません。聖書は救いが所属に関連されているのを啓示しています。所属はその人がいる位置を表します。キリストに属した人はキリストの中にいます。ノア時代に神様が洪水でこの世を審判なさった時、全ての人が死にましたが箱船の中にいる人々は生き残りました。滅びと救いはその人がどこにいるかに関連します。' どこにいるか？ ' ' どこに属したか？ ' ということが救いと滅びの差をもたらすのです。箱船はイエスキリストの模型であり陰です。救われた人はイエスキリストに属しました。どこに行っても、何をしてもイエスキリストの中にいます。これはこの世のいかなる所属とも区別される特別な所属であります。
第二、イエス様を信じる人は生活の方法が特別です。
イエス様を信じる人は聖三位神様の助けと福を与えてくださることを信じて求めながら生きていきます。イエス様を信じる人は神様の助けなしには何事もできないのを知っている人です。聖書には神様に求めなさいというお言葉が多く記録されています。イエス様を信じる人は最善を尽くして努力し、積極的にお祈りしながら主の導きと決定に任します。主の約束を捕まえて信仰で求める人のために主が働かれて彼の善と無限の知恵として最善の道に導いて応答してくださいます。私達がお祈りして任せるとまず、主が私達の心に平安と大胆、喜びを与えてくださいます。神様の助けと福を与えてくださるのを求めて応答を期待しながら神様に任せるのがイエスキリストを信じる人が生きていく特別な方法です。
第三、イエス様を信じる人は生活の理由が特別です。
イエス様を信じる人は " キリストのために " 生きていきます。 " キリストのために " 生きていく人にはキリストより尊く扱うのがあってはいけません。 " キリストのために " 生きていく人には全ての事の判断基準がキリストです。信仰生活において非本質的な問題を基準として扱い、判断して罪があると定めるのは無益で有害であります。全ての事を自己中心的に解釈して自分のために判断しないようにしなければなりません。イエス様を信じる人は全ての事の判断基準が " キリストのために " であります。飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきであります。留まっても離れてもただ主に喜ばれる者となるために心からの願いながら生きていきます。
イエス様を信じる人はどこで何事をしても特別な所属意識があります。 " 私はキリストに属した " という所属意識です。イエス様を信じる人には特別な生活方法があります。物事に最善を尽くしながら神様に頼ります。聖父、聖子、聖霊に助けを求めながら福を与えてくださるのを求めます。神様の応答を期待します。神様に任せます。イエス様を信じる人には特別な生活の理由があります。主のために生きていきます。キリストが第一であり優先で中心であります。判断の基準です。従って、イエス様を信じる人は普通の人ではありません。特別な人であります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

聖書に啓示された未信者の実状

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は自分の実状を必ず分からなければなりません。なによりも急務はありません。 実状というのは実際の状態です。私たちは鏡をみると、自分の外見の実状を知ることができます。しかし、自分の霊的な実状は鏡を介して見ることができません。人間の霊的な実状を赤裸々に見せてくれる鏡があります。それは聖書です。今日は、聖書が示して未信者の実状について見てみましょう。

人々が神様の言葉を接し、自分の実状を確実に知ると、神様のみもとに近付く来ます。イエスキリストを受け入れるようになります。未信者が神様の言葉を聞くと、自分が神様の怒りの下にあり、最終的に審判を受け、地獄の刑罰に処するようになる罪人という実状を分かるようになるからです。聖書はこれについて非常に明確で十分な知識を提供しています。

地獄のお話をすることは決して愉快なことではありません。しかし、私たちの周りにはまだ地獄に向かって行く人がいるので楽しくなくても地獄について話します。地獄の説教を聞いたある夫人が牧師に行っ聞きました。 「子供が苦しみの中に陥っていても助けてくれない父親がいる場合は、その父をどう思いますか？」「そりゃもちろんそんな父は暴君や無慈悲な者ということができるでしょう。」と牧師が答えると、その夫人が「それなら牧師は神様を無慈悲な神様として扱わしています。神様は自分の子供が犯罪したと、そのように悲惨な地獄に落とした場合、暴君がなくて何でしょう？」と批判しました。すると牧師は真顔で答えました。 「地獄には神様の子供たちが一りもありません。地獄にいる者たちは、悪魔の子供です。神様の子どもたちは、天国にいるか、天国に行っている人だけです。神様はその子供たちを天国に導き、悪魔は自分の子供たちを地獄に導いています。〃

イエス様は自ら言いうのを〃**また、からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。 」（マタ マタイによる福音書 10:28**）としました。地獄がない場合、聖書に非常に多くのお言葉が神様の裁きと地獄について記録されなければならない理由がないでしょう。聖書には、「審判」について多く記録されています。審判という名詞は、すべて 419 回「審判であるが、審判した、審判される」という言葉は、すべて 335 回です。新約聖書の福音書には、審判に関する言葉と例えが大きな比重を占めています。 **ヘブル人への手紙 9 章 27 節に記録されることを「そして、一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることとが、人間に定まっているように、」**としました。

もし地獄がない場合、イエス・キリストが世の中に来て死と復活が不要なかったことです。イエス・キリストがこの世に来られた理由は、聖書には、次のように記録されています。

「神様はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。 」（ヨハネによる福音書 3:16）。「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神様はわたしたちに対する愛を示されたのである。わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によって神様の怒りから救われるであろう。」（ローマ人への手紙 5：8,9）しました。イエス・キリストの誕生と死と復活は、私たちを神様の怒りからと地獄の罰から救われるためのものです。

もし地獄がない場合、福音を伝える理由はありません。イエス様は福音を伝えるように命じられました。**「 そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。 信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。」（マルコによる福音書 16：15,16）**。福音を伝えるためには、多くの犠牲と苦難を耐えなければならず、時には命を失うこともあります。イエス様の弟子たちは、ヨハネを除いては、すべてが殉教しました。使徒パウロも殉教しました。多くの宣教師が故国を離れて外地で福音を 伝えるから殉教しました。福音を伝えるためには、多くの手間と犠牲が求められます。

地獄がない場合はすべての四苦八苦と死も辞さて福音を伝える理由はありません。

イエス様は、地獄にいる人の状態について生き生きと描写したお話を聞かせていただきました。**ある金持がいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮していた。 ところが、ラザロという貧乏人が全身でき物でおおわれて、この金持の玄関の前にすわり、 その食卓から落ちるもので飢えをしのごうと望んでいた。その上、犬がきて彼のでき物をなめていた。 この貧乏人がついに死に、御使たちに連れられてアブラハムのふところに送られた。金持も死んで葬られた。** 二人のお話はここで終わらない。

イエス様は続いて死の向こう側あの世で彼らの実状を言われました。 金持ちの魂は、 地獄に落ち火の中から苦しみました。しかし、ラザロの魂は天使たちに迎えを受けアブラハムの胸と呼ばれる楽園に登って言葉で表せない喜びを享受していました。 **そして黄泉にいて苦しみながら、目をあげると、アブラハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見えた。 そこで声をあげて言った、『父、アブラハムよ、わたしをあわれんでください。ラザロをおつかわしになって、その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえています』。** アブラハムは答えました。 **「 アブラハムが言った、『子よ、思い出すがよい。あなたは生前よいものを受け、ラザロの方は悪いものを受けた。しかし今ここでは、彼は慰められ、あなたは苦しみもだえている。 それればかりか、わたしたちとあなたがたとの間には大きな淵がおいてあって、こちらからあなたがたの方へ渡ろうと思ってもできないし、そちらからわたしたちの方へ越えて来ることもできない』。 そこで金持が言った、『父よ、ではお願いします。わたしの父の家へラザロをつかわしてください。わたしに五人の兄弟がいますので、こんな苦しい所へ来ることがないように、彼らに警告していただきたいのです』。アブラハムは言った、『彼らにはモーセと預言者とがある。それに聞くがよかろう』。金持が言った、『いえいえ、父アブラハムよ、もし死人の中からだれかが兄弟たちのところへ行ってくれましたら、彼らは悔い改めるでしょう』。**

アブラハムは言った、『もし彼らがモーセと預言者とに耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう』

聖書は地獄について言うだけでなく、そこを避ける方法も教えてくれます。避ける方法はただ一つがあり、悔い改めて、イエス・キリストを信じることです。二種類の人生があります。一つは、クリスチャンの人生であり、他の一つは、未信者の人生です。人が行うことができ、2 種類の決定があります。イエスキリストを受け入れる決定とイエスキリストを排斥することを決定どちらかです。人の魂には 2 種類の運命があります。天国に行くとか地獄に行くことのどちらかです。神様は一人一人に自分の選択権を与えされました。

地獄は、イエスキリストを信じない人の死と接しています。取り返しのつかない瞬間的な死は、予期せきて、誰でもします。地獄に入らない、[今すぐ決断が必要です。まだイエスキリストを信じていない人でも、この時間決断し、イエスキリストを自分の救い主として信じて受け入れれば地獄の権威から解放されます。

イエス様は再臨して栄光の御座に座って、すべての民族を、その前に集め羊飼いが羊とヤギを分別するように、それぞれ分別して 羊 、その右側にヤギは、その左側に置いて審判すると言われました。そして左側にある人々に**「それから、左にいる人々にも言うであろう、『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火にはいってしまえ。 〃 （マタイによる福音書 25:41）**と判断することを言われました。この言葉を見ると、地獄は、元に人を罰するために用意された場所ではありません。人間が堕落して悪魔の力の下に置かれて、悪魔の奴隷のようになったわけで悪魔とその使いたちのために用意されて地獄に入ることになりました。

神様は、人が地獄に入ることを望んでおられません。一人も滅びないで皆が救いに至ることを望んでおられ。そのため、罪人を罪と悪魔と滅亡から救うためにひとり子イエスキリストをこの世に送られました。そして、私たちの罪をあがないになりました。神様の怒りと裁きと地獄の実状を考えると、福音を伝えることよりも急務で善良なことはありません。聖徒の皆さんは、多くの人々に福音を伝え、暗からの光で、悪魔の力から神様に戻りして、地獄に行く者を天国に向けることに努めてください。

聖徒の皆さんは未信者たちに実状を明確にお知らせします。このため、聖霊様の助けを求めてください。そして、多くの人を救いの道に導く喜びを持つようになりますように。